野仏のたたずむ六甲の道を歩く

第6回ハイク　16人参加

第6回「北区の歴史の道を歩く」は、晴天に恵まれた6月5日、〈野仏が佇むシュラインロード〉のコースで16人が参加して行われました。

9時半にＪＲ六甲道に集合。近代化遺産の六甲山ケーブル山上駅舎や巻上機を見学した後、六甲山に日本初のゴルフ場を開設したほか、登山道の整備をおこなって「六甲山の開祖」と言われる、英国人Ａ・Ｈ・グルームにまつわる数々の場所を巡りました。山上の気温は22.5度と下界より５度ほど低く、少し肌寒い感じでしたが、快適な山歩き日和で、記念碑台で昼食を摂った後、シュラインロードをのんびり下りました。

シュラインロードとは明治のはじめ、この道をハイキングした居留地の外国人たちが山道に、行者堂や石祠のあることから、シュラインロードと名付けたものです。は、唐櫃道や行者道と呼ばれ、江戸時代中期に北摂方面から、酒米・三木の刃物・農産物が、灘方面からは海産物などが運搬され、神戸の海岸地方と内陸部を結ぶ経済の動脈でした。

この山道で野盗や辻斬り、事故の犠牲になった人々への供養と、道中の安全・商売繁盛を願って、西国三十三観音所霊場になぞらえて33体の石仏が祀られています（写真）。

下山途中にある六甲山山岳信仰の開祖「役行者」を祀る行者堂や裏六甲ドライブウエー工事の際、10体の観音石仏を一か所に集めたという「九体仏」の祠などを見学。パンフレットの地図で「33体の観音石仏」を一つ一つ数えながら、六甲山開発に携わった先人たちをしのびに思いを馳せ、のんびりと神鉄六甲駅まで下り、午後4時ごろ解散しました。

シュラインロードを歩くのは初めての方が多く、「来てよかった。次回も参加したい」との声が聞かれた反面、里に近づくにつれ、木陰もなくなり、日差しもきつく、気温が上昇し、全員がばて気味となってしまいました。「もう少し、距離を短くして！」との声もあり、次回の反省点となりました。（文と写真　木田育義・）写真＝山道でひと休みする参加者

広陵小の105人招き自然学習

里山和楽会、かがやきの森で

里山和楽会（道満俊徳会長）が広陵小の児童を招いて行う春の環境体験学習は５月30日、かがやきの森一帯で開催されました。当日は晴天に恵まれ３年生105人が3組（9班）に分かれ、山田道ーかがやきの森ーカブトムシ飼育場のコースを3時間にわたって散策し、学習しました。（

植物の説明を聞く児童

児童は9時に学校を出発、山田道では棚田跡をさぐり、昔の生活の話を聞きました。植別名をあてるビンゴゲームでは植物の名前と効用などの説明に聞き入り、カブトムシの飼育場では幼虫を観察。カブトムシの話を聞きながら、自然と触れ合う体験を楽しみました。

六甲山麓に住んでいるのに、田んぼを見たり、山に入ったりした経験がない児童が殆どで、「びっくりした。面白かった」と話していました。

この体験学習は、里山和楽会が毎年春と秋におこなっており、広陵小の子供たちも楽しみにしています。（道満俊徳記）